

2021年7月6日

各 位

大阪信用金庫
理事長 高井 嘉津義

定例調査：第188回 景気動向調査（4～6月期）

- ☆回復をリードする製造業・・・売上DI +19.4ポイント
- ☆ワクチンに期待、旺盛な設備投資・・・「予定あり」12.1%
- ☆懸念される収益悪化・・・「仕入単価上昇」53.9%
- ☆コロナ収束近いのか？賞与アップ・・・支給する61.5%

●回復をリードする製造業・・・売上DI +19.4ポイント

総合では、売上DIが-26.4（前环比+20.7ポイント）、収益DIが-27.9（前环比+18.4ポイント）と4期連続の上昇となりました。売上DIは、製造業が-20.2（前环比+19.4ポイント）まで回復しています。しかし、飲食業は-42.8となり、緊急事態宣言の発令とその後の期間延長による影響が大きく、苦戦が続いています。2021年7-9月期は、売上DIが4.3ポイント、収益DIが1.7ポイントとともに上昇すると予想しています。

景気を回復軌道に乗せるため、職域などワクチン接種の拡大だけでなく、継続的な中小企業支援策が必要と思われる。

●ワクチンに期待、旺盛な設備投資・・・「予定あり」12.1%

設備投資は、総合では「実施中」11.2%（前环比△0.6ポイント）、「予定あり」12.1%（前环比+0.4ポイント）で合計23.3%となり、設備投資意欲は旺盛です。

特に「予定あり」は、過去1年で最大となり、ワクチン接種拡大による経済回復や、事業再構築補助金など公的支援に大きな期待を寄せています。「実施中」+「予定あり」は、飲食業が32.4%（前环比+11.5ポイント）に上昇しました。

設備投資の内容は、「機械等の新設・増設」が29.3%（前回32.3%）、資金調達方法は、「全て自己資金」が43.5%（前回37.8%）となりました。

●懸念される収益悪化・・・「仕入単価上昇」53.9%

経営上の問題点は、総合では「売上停滞減少」が71.7%（前环比+0.9ポイント）となっています。

鋼材価格の上昇やウッドショックにより、「仕入単価上昇」が53.9%（前环比+10.0ポイント）に急上昇しました。特に製造業は66.9%（前环比+15.9ポイント）と突出し、収益の悪化が懸念されます。

●コロナ収束近いのか？賞与アップ・・・支給する61.5%

夏季賞与は、「支給する」が61.5%（昨年比+0.8ポイント）となり、製造業では70.5%（昨年比+3.5ポイント）に上昇しています。また、支給金額も20万円以上が増加しました。中小企業では、仕入単価上昇により今後利益の確保が難しくなりますが、将来の事業回復を見据え人材確保や流出防止に懸命で、支給金額を引き上げざるを得ないのが実情と思われる。

調査時点：2021年5月下旬～6月上旬

対象期間：2021年4～6月期（実績） 2021年7～9月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先1,728社（大阪府内、尼崎市）

回答企業数：769社（回答率44.5%）（新型コロナウイルス感染症対策のため郵送で回収）

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL：(06)6775-6590 FAX：(06)6772-1630

E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp URL：https://www.osaka-shinkin.co.jp

この街のホームドクター



大阪信用金庫